

明日の健康を応援するメディカル情報マガジン

2024新年号 No. 39

あしたは

ASHITABA
Medical
Information
Magazine

理事長挨拶
院長挨拶
看護部長挨拶
事務長挨拶
部署紹介
学会発表への挑戦
外来診療担当表

【あしたばとは】

日本原産の多年草で、若葉を今日摘んでも明日若葉がでてくることから、その名がつけました。ビタミンB群を豊富に含む生命力が旺盛な植物で、古くから不老長寿の妙薬とされています。四季を通じて収穫できますが、2月～5月ごろが旬です。

ご自由にお持ちください

TAKE FREE

社会医療法人 三 佼 会

<http://sankoukai.net>





院長 与儀 安男

皆さま明けましておめでとございます。
本年も宜しくお願いいたします。

数年間悩まされている新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、ようやく通常に近い状況が戻ってきました。

私も先日研究会で大阪に出る機会がありましたが、街に出ると年の瀬の週末ということもあり、ものすごい人出でした。外国の方も多く、また、皆さん笑顔で活気があり、いよいよ経済的にも復活してきているのかなと思いました。これを見るとやはり健康の大事さというのを痛感いたしました。体の健康はやはり日頃の心がけが大事です。ぜひ皆さんも生活習慣をしっかりとチェックしながら健康な生活を送っていただければと思います。

また、体の健康とともに心の健康も大切かと思えます。希望・目標、或いは好奇心を持ち続けるということは、脳を若々しく保つのに重要であるということは脳科学的にも証明されています。

どのような状況にあっても常に前向きな気持ちを保っていくということが大事です。

私たち宮崎病院も毎年毎年新しい目標を掲げて頑張っています。昨年は専門医の先生2人を迎え整形外科が常設となりました。この様に診療の充実を図ってきていますが、基本にあるのは他医療施設とも連携して地域医療をしっかりと支えていくという信念です。それを心掛けながら職員一同皆頑張っていきますので今年も何卒よろしくお願いいたします。

院長編

わたしの趣味

わたしの趣味はゴルフと写真です。長崎の四季の風景が好きです……。晴れていて暇さえあれば、リフレッシュも兼ねて写真撮影やゴルフに出かけています！！



新年のご挨拶

二〇二四年



理事長 宮崎 雅也

あけましておめでとございます。

2023年は新型コロナウイルス感染症が指定感染症「5類」へ引き下げられ、社会や経済活動が正常化へ向けて少しずつ進み始めた年でした。また、大谷翔平選手の異次元の活躍による侍ジャパンのWBC優勝など野球をはじめとした様々なスポーツで日本人の活躍が目立ち、大変に盛り上がった年でもありました。活躍には選手たちの日々の努力があることはもちろんですが、何が日本人選手の強さの源になっているのでしょうか。一つには選手、そして選手をサポートする人たちとのチームワークがあるようです。強い選手をどんなに集めても勝てないチームもあれば、資金力はなくても多くのサポーターの応援を受けて勝つチームがあります。チームワークにより予想以上の力を発揮して強敵にも打ち勝つといった場面は、私たちに大きな感動や勇気・エネルギーを与えてくれ、スポーツの面白さとなっているのではないのでしょうか。

これはスポーツのみではなく、医療をはじめとした様々な分野の活動においても同様だと思います。患者様が病気と闘う選手であれば、家族や病院の医師や看護師など多くのスタッフは選手のサポーターです。普段から私たちはチームワークにより大きな病気にも打ち勝つといった目的を共有するチームなのです。あくまで患者様が選手です。患者様本人は毎日の食事に注意し運動を心掛ける、医師が処方した薬も正しく忘れずに服用する、調子が良いのを維持するためのケアやリハビリに日々努めなければなりません。

しかし、最近では少子高齢化が進み、「高齢で独居」や「老々介護」といった場合も多くなり、様々な面で支援が必要となっています。このため家族や病院のスタッフだけではなく、医療資源を取り扱う業者、院外薬局の薬剤師、ケアマネジャー、介護施設のスタッフなど地域の多くの人が選手のサポーターとして集まり、チームワークを発揮して病気に打ち勝つよう支援をしていかなければならない時代となっています。

当院の「三校会（さんこうかい）」という名称は、患者様と家族・医療従事者・業者の三者が協力し合って「病を癒していこう」という発想に基づいています。また、理念の「全員参加型医療で人々の健康を推進する」は、（患者様のサポーターとして）地域全体でチームワークを発揮して、地域医療に貢献していこうという想いを表しています。昨年、当院では整形外科の常勤医師2名が加わり診療体制が充実したほか、電子カルテの刷新を図りました。今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」。「これまで培った力を十分に発揮し成長や変化がめざましい年と言われると思います。今年はいわゆる医療DX（デジタルトランスフォーメーション）で取り組みが進められているマインバーカードや電子処方箋への対応、「医師の働き方改革制度」の開始、「診療報酬改定」（保険医療サービスに対する報酬制度の改定）への対応などを課題として、地域のかかりつけ医・病院として地域医療に貢献できるよう職員一同協力し努めてまいります。

今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

謹賀新年

宮崎病院には医師、看護師をはじめとした多くの医療従事者が勤務しています。新年を迎えそのなかから4つの部署に「昨年を表す言葉」そして、「今年の目標」を聞きました。

看護部『教育チーム』

看護部教育チームでは、新人看護師、2年目以降の看護師などそれぞれの状況に合わせた教育内容を考え、その人にあったサポート体制を整えています。新人看護職員と指導者が同じ目線で進捗状況を把握でき、お互いが学び合える環境を作りあげています。1年目、2年目それ以降も安心して働けるようチーム全体で支えています。



- 昨年を表す言葉は「人」…看護は1人では提供できません。患者様ひとりひとりのその人らしさを支えるためには、看護チーム力が必要です。看護チーム力を最大限に発揮するためにはスタッフ個人の力を引き出すこととスタッフ同士の輪が繋がっていることが重要だと考えます。そのためには対話を通じて“その人を知る”“その人の強みを知る”“その人が持っている力を知る”ことが大切だと思います。昨年はそれを実感した一年でした。
- 今年の目標は…2024年の看護部の目標の一つに「多様性を認め合い、自己の役割を認識し、互いに協力しながら責任を全うする人材育成」を掲げました。昨年に引き続き「人」との繋がりを持ち、看護チーム力を強化し患者様ひとりひとりの日常生活に自分らしさを取り戻せるよう努力して参ります。

臨床工学室

私たち臨床工学技士は、手術室の機器操作や管理を行う手術室業務、人工透析装置の操作をする血液浄化業務などのほか、院内の医療機器の性能が維持できるように保守・点検をする医療機器管理業務などを行っています。また、様々な医療機器の操作方法や注意点をスタッフへ説明することにより医療事故防止の一端を担い、やりがいを感じています。

- 昨年を表す言葉は「結」…部署内の結束力が高まった1年でした。共通の目標に向かって部署全体が効果的に機能したと思います。
- 今年の目標は…「中庸（ちゅうよう）」です。過不足なく調和がとれ、何事も事を成すのに前向きな姿勢で業務に携われるようにしていきたいです。



明けましておめでとうございます。
昨年は生活必需品の値上げ、海外情勢の急激な変化がありました。スポーツ界では待ジャパンがWBCで世界一となり、大谷翔平選手の大活躍など、大きな刺激と勇気をもらいました。
2024年は辰年。辰年は活力旺盛になって、大きく成長し形が整う年と言われます。今までやってきたことを目に見える形にしていける様、いつの時代でも変えてはいけないもの、変化に合わせて変えていくものをしっかり見極めて柔軟でありたいと思います。
当院では、転倒による骨折入院などの患者様が増えていることから、FLSチーム（二次性骨折予防）を立ち上げました。同時に認知症ケアの充実を図るとともに、「寝たきりにさせない」「在宅復帰を目指す」取り組みを積極的に進めています。
私は、看護部の理念にある「思いやりの心で患者さまと共に」という言葉に二つの願いを込めたいと思います。一つは、患者様の思いに寄り添い、その人らしい生活を支え、そして患者様に心のこもった優しい一言とぬくもりの手を添えられることです。二つ目は、働くスタッフがお互いに「ありがとう」の言葉を伝えあい思いやりの心をもって支えあう職場でありたいということです。
現在、職種を超えて職員同士が助け合い、つながりあう風土の芽が成長し続けています。
「つながる」をキーワードに「職員同志がつながる」「看護が地域とつながる」「患者様の心とつながる」、様々な「つながり」を大きな力にして、よりよい看護サービスの提供につなげていきたいと思っています。
今年は診療報酬トリプル改定の年を迎えますが、当院が地域に根付く急性期病院、また皆様の心のよりどころとなるような地域密着型病院を目指して今後も取り組んでまいります。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

看護部長
尾上 恵美子



事務長
大野 哲彦

看護部長
尾上 恵美子

皆さま 明けましておめでとうございます。
本年は新型コロナウイルス感染症が指定感染症の五類に変更となり、コロナ禍前の穏やかなお正月を迎えることと思います。
医療においても、医療提供体制が有事から平時へと切り替わりが進んでおりますが、引き続き感染対策の徹底は必要な状況です。
さて、世の中は世界情勢や少子高齢化問題等に対応するため、急激な変化を見せています。医療は生活を支える重要な社会基盤の一つです。安全・安心で質の高い医療を提供・維持するために様々な課題を解決していかなければなりません。特に医療受給の不一致・医療の支え手不足などへの対応、医療DX推進、物価高騰や労働環境改善対策、情報セキュリティ対策等が必要となります。
本年のイベントとして、新紙幣発行、パリオリンピック・パラリンピック開催等が控えていますが、医療・介護では、四月に医師の働き方改革の新制度が施行され、診療報酬・介護報酬および障害福祉サービスも同時改定となります。また、秋には健康保険証とマイナンバーカードが一体化される予定ですので、適切に対応しなければなりません。
そのような中、職員一同、当会の機能を更に充実させて地域に根ざした医療機関として存在意義を高めていければと思っております。
本年の干支は『甲辰』で『自身の足元をしっかりと見て、踏み締めることで花が開く』そうです。
事務部門としても、しっかりと足元の課題と向き合いますので、今後ともよろしくお願い致します。

事務長
大野 哲彦

学会発表への挑戦

当院の回復期リハビリ病棟では作業療法士を中心に病棟全体で、病棟実施型CⅠ療法（手の集中リハビリ）を取り入れ、多職種と連携して患者さまをとリハビリを行っています。今回はそれらをもとに学会発表を行ったスタッフ2名と電気刺激について学会発表を行ったスタッフ1名に注目しました！

研究テーマ

「脳卒中により上肢麻痺を呈した患者に対して病棟実施型CⅠ療法アプローチの経験」



草野 嵩一朗さん
作業療法士歴8年目

第57回日本作業療法学会 in 沖縄

今回の学会では当院の病棟実施型CⅠ療法のフレームワーク作りに主眼をおいて発表しました。2年前、CⅠ療法を病棟でも導入するために、まずは文献を読み、先行研究調査を行い、病棟全体で取り組むためのシステムの流れや計画を考えました。マニュアルのたたき台を作り上げ実践に移すも、一症例毎に見直しを行い1年間は修正の連続でした。病棟実施型CⅠ療方は普段のリハビリに加え、病棟でも訓練が必要です。患者さまもきついと感じる状況もあったと思います。そんなとき病棟CⅠ療法を取り入れた患者さまが退院する際「このリハビリをやってよかった！他の患者さんにもすすめるべき」と声をかけていただきました。自分自身、何度も心が折れかけた時期もありましたが、この言葉をいただき頑張った甲斐があったと実感しましたし大変嬉しい出来事でした。学会では参加者から「多職種で取り組むためにどんなシステムを構築したのか？」と多数の質問をいただき、当院で作上げたマニュアルを紹介するなど病棟実施型CⅠ療法の需要を再確認する事ができました。また、作業療法学会の権威ある方からも「よく形にできたね」とお褒めの言葉もいただく事ができました。今後も現状に満足せず、常に挑戦する姿勢でよりよいリハビリテーションを提供できるよう頑張っていきたいと思っています。



第57回日本作業療法学会 in 沖縄

研究テーマ

「上肢麻痺への自己認識が低下している症例に対して病棟実施型CⅠ療法を行い改善がみられた一例」

今回、全国の作業療法士が集まる学会で、当院の病棟実施型CⅠ療法を行った症例について発表しました。多くの参加者の方に興味を持っていただき、発表後は当院の病棟実施型CⅠ療法はどのように運営しているのか詳しく知りたいと多くの質問をいただき確かな手応えを感じました。また、自分自身も他の病院の取り組みも目の前で聞くことができ、今後の病棟実施型CⅠ療法に活かせる情報やヒントとなる内容もあり、自分にとって収穫の多い学会となりました。学会発表までの道のりは、日々の業務に加え研究を行うことが大変な日もありますが、困ったときにすぐに相談ができアドバイスをもらえることや、一緒に頑張るスタッフがいるこの環境に助けられています。今後は学会発表への挑戦はもちろんのこと、そこで得られた知識を患者さま、病院に還元していけるよう学び続けていきたいです。



池田 結花さん
作業療法士歴6年目

九州作業療法学会 2023 in 鹿児島

研究テーマ

「回復期脳卒中患者に対し持続的低振幅電気刺激下の促通反復療法を実施し麻痺手の機能改善を認めた一例：シングルケースデザインによる効果検証」

今回の発表は脳梗塞による右麻痺を生じた患者さまへ持続的に麻痺側へ電気刺激を与える事で、麻痺側にどのような効果が出るのかを約1ヶ月間検証しました。学会への発表は今回で2回目の挑戦になります。学会では参加者の方から質問があったり、ディスカッションを重ねることで、違う視点での意見をいただいく中で、新たに気づいたことも多く、別のアプローチもあったなぁと振り返ることができました。自分にとって大変有益な経験となりました。今、当院では整形外科疾患の患者さまが増え、新体制でのチーム活動も開始しています。今後は自分自身がもっと整形外科疾患の知識もつけて患者さまに効果的なリハビリテーションを提供できるよう頑張りたいです。



小川 良輔さん
作業療法士歴7年目



医療連携室兼医療相談室

医療ソーシャルワーカー4名、退院調整看護師1名が所属しており、患者様やご家族様が抱える問題や不安に対して、一緒に解決方法を考えサポートする部署です。外来や入院～退院後の生活まで、多職種と連携を図りながら、患者様・ご家族様の思いに寄り添った支援を行うよう心がけています。

- 昨年を表す言葉は「支」…患者様・ご家族様のご要望を叶えられるよう、連携室内でも意見を出し合い、「支」え合いながら日々業務に取り組んできました。昨年は新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したものの、まだ少し影響が残る中、院内・院外の退院支援に携わる多くの方々の「支」えが改めて大事だと感じた1年でした。
- 今年の目標は…県央地区の二次救急を担う医療機関として、切れ目のない支援を提供できるよう、地域の医療機関・ケアマネジャー・施設職員などと、顔の見える関係づくりに取り組んでいきたいと思っています。



通所リハビリセンター

通所リハビリテーションは要介護状態にある方が、自立した生活が送れるように、心身機能の維持・回復を目的とした介護サービス、リハビリテーションを通いながら受ける事ができることです。利用者さんの普段の生活に彩りを持てるよう、私達スタッフがひとりひとりに合わせたプランを考えています。利用者さんが自宅での楽しみ、生活の楽しみにつなげられるよう取り組んでいます。



- 昨年を表す言葉は「明」…昨年は新型コロナウイルス感染症が5類に引き上げられた事で行動制限が解除され、「コロナ明け」で新たな行動に移り変わる年でした。事業所内では、新型コロナウイルス感染症の発症は一例もなく、利用者様、ご家族様に安心して過ごしていただける空間作りができ、一日も欠かすことなく、明るい皆様の笑顔を見ることができました。
- 今年の目標は…今年は辰年ということもあり「昇」る一年にしていきたいです。「野外ケア」や「季節の行事」など様々な催しに「挑戦、計画、実行」し、皆様に「楽しい」「行きたい」等と言われる、魅力ある事業所にしていきたいと思っています。より生活に密着しながら、ご自宅の生活に彩りを与えられるよう、日々のリハビリテーションやケアに取り組み、「楽しい」事業所作りを目指して、スタッフ一同全力で頑張っています。



整形外科の
診療日が
増えました！



外来診療担当表

診療科によっては予約制となっておりますので、
病院受付（0957-25-4800）にお問い合わせ下さい。
各医師の担当時間は緊急手術などで変更することがあります。
検査などの混雑を避けるため、できるだけ午前中早めの受診を
お願い致します。
令和6年1月

診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土
脳外科	午前	堤	堤	堤	堤	石坂	1・3 石坂
		石坂	石坂	大学医師	石坂	大学医師	2・4 堤
腎臓内科	午前	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎
泌尿器科	午前	与儀	与儀	与儀	与儀	与儀	※与儀
循環器科	午前	白石	白石	大学医師	白石	白石	白石
内科	午前	(内)鬼塚	(内)鬼塚	(内)鬼塚	(呼)大学医師	(呼)大学医師	(内)阿座上
	午後	1・3・5 阿座上	龍田	—	龍田	—	—
総合外来	午前	(内) 龍田	(内) 龍田	(内) 龍田	(内) 龍田	(内) 龍田	—
	午後	(内) 龍田	(内) 白石	(内) 龍田	(内) 阿座上	(内) 龍田	—
		(脳) 石坂or堤	—	(脳)大学医師	—	(脳)大学医師	—
外科	午前	山口	山口	山口	山口	山口	—
整形外科	午前	杉山	大学医師	杉山	久芳	1・3・5 杉山 2・4 久芳	※久芳
	午後	久芳	大学医師	久芳	杉山	杉山	—
形成外科	午前	(形成)大学医師	—	—	—	—	—
	午後	(形成)大学医師	—	—	—	—	—

※不定期 お問い合わせください

社会医療法人 三校会関連グループのご案内

社会医療法人 三校会理念

『全員参加型医療で人々の健康を推進する』

手と手を取り合い、患者様のために、健康保険事業・医療・介護福祉サービスを通じて、
人々の健康寿命と健全な生活を追求し、地域社会に貢献します



宮崎病院

住 所／〒854-0066 長崎県諫早市久山町1575番地1
TEL 0957-25-4800 FAX 0957-26-7054

診療科目／脳神経外科・外科・形成外科・泌尿器科・整形外科・救急科・麻酔科・消化器外科・リハビリ
テーション科・消化器内科・循環器内科・腎臓内科・呼吸器内科・放射線科・内科・老年内科
関連施設／人工透析センター・居宅介護支援事業所・通所リハビリテーションセンター・訪問看護
ステーション・訪問リハビリテーション

無料
駐車場
完備

●外来受診の患者様は無料です。
●入院やご家族の付き添いで、
主治医の許可を受けた方は、
1回500円になります。



宮崎診療所

住 所／〒854-0067 長崎県諫早市久山台9-10
TEL 0957-25-2050 FAX 0957-25-5170

診療科目／消化器内科・内科
関連施設／総合健診センター

無料
駐車場
完備



<http://sankoukai.net>

三校会 広報委員会